

	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
6	地域自然エネルギーを活用したU-LOHAS構想 - 施策代替案と行政プロジェクトチームの提案 -	宇都宮大学農学部農業環境工学科まちづくり提案チーム	
		高畑 健太郎	宇都宮大学大学院 農学研究科
		指導教員 氏 名	野口 良造

目標

本提案の目標は、昨年度の宇都宮まちづくり提案につづいて、地域自然エネルギーを活用したU-LOHAS～宇都宮口ハス（Utsunomiya-Lifestyles Of Health And Sustainability）～の提案を行い、高度な生産消費者として宇都宮市民が生活できる社会システムを構築し、宇都宮市が日本の地域中核都市として、循環型社会を意識した魅力あるまちづくりを創出することである。

現状・課題

地域自然エネルギーを活用した U-LOHAS によるまちづくりを提案するにあたり、宇都宮市の現状と課題は、大きく以下 3 つにまとめられる。

宇都宮市は他の地方中核都市と比べ、多くのエネルギーを消費している。特に交通運輸にかかわるガソリン需要は他の地域と比べても高い状況にある。

宇都宮市内には恵まれた気候及び地理的条件から、地域自然エネルギーが多く潜在しており、これらを有効に活用することで、地域のエネルギー需要の大部分を賄うことができる可能性を有している。

宇都宮市では現在環境基本計画や地域新エネルギービジョンに基づいたエネルギーに関する施策が行われている。しかし、本来エネルギー政策は幅広い分野にまたがるものであるが、環境基本計画に基づいた施策体系の中では、実行可能な事業が制限されてしまっている。

施設事業

生産消費者の創出を基本におく宇都宮市に導入可能なエネルギー施策代替案を、国内外の地域自然エネルギーを活用したエネルギー施策をもとに提案する。宇都宮市の地域特性を考慮した太陽光発電普及に関する施策、グリーン電力証書の活用に関する施策、耕作放棄地を活用したバイオエタノールの栽培支援に関する施策、市民出資ファンドによる風力発電の導入に関する施策を提案した。続いて、宇都宮に導入が検討されている L R T に関しても、エネルギー施策の観点から導入を提案した。提案の選定に当たっては、市の財政の中から追加的な費用が発生しないよう考慮した。施策案を全て導入すると、宇都宮市全体で年間 30,025 t の二酸化炭素削減となり、この値は現状施策の約 30 倍の効果がある。さらに、これらの施策は既存の執行体制では対応が難しいため、庁内の資源・エネルギー利用を推進するための部局横断組織を提案した。